

# 城郭の後成的景観の錯綜度とその影響要因について

岩手大学工学部 ○学生会員 田子 洋一  
岩手大学工学部 正会員 安藤 昭

## 1.はじめに

本研究は都市の歴史的景観としての城郭の後成的景観の形成要因とその相対的影響度を明らかにすることを目的としている。

## 2. 錯綜度および保存度の定義

城址公園の錯綜度  $S$  は次式で表わされるものとする。

$$S = - \sum_{i=1}^n P_i \log_2 P_i / \log_2 n \quad (1) \quad 0 \leq S \leq 1$$

ここに、 $P_i$ ：城址公園内のオイ要素の公園面積に対する面積比率、すなわち要素の出現確率推定値、 $\sum_i P_i = 1$ 、 $n$ ：要素の数、城址公園内の各要素は、使用目的（求められる機能）は、景観（形態およびイメージ）を規定するという考えにとづいて、公園内の64施設を12要素に分類した。(Table1) 歴史的環境の保存度  $G$  は、城址空地が上記の景観要素のうち常に上位を占めることが知られるので、次式で示されるものとする。

$$G = 1 - S \quad (2)$$

## 3. 調査

### 3-1 調査方法

縮尺1/600～1/2500の1977年(S52年)の公園現況図を使用し、各要素の面積割定はプランメーターによっている。

### 3-2 調査対象都市

前論文により選出された6都市の中から、集まったデータの数により68都市を解析の対象としている。調査対象都市をTable2に示す。

## 4. 解析方法

錯綜度は、成長、発展を示す尺度としての都市度、城郭の地理的、地形的条件および人文的条件（各種の指定や条例など）によるものと仮定し、次に示されるような10要因を選定した。1予算、2予算比、3土地所有、4指定、5象徴度、6地理、7境界、8公園面積、9地形、10都市エネルギー。バリマックス法により要因の独立性の検定を行い、錯綜度を解析対象（外的規準）として要因について、数量化理論I類により解析した。Table3にこれらのカテゴリー規準を示す。

## 5. 解析結果

数量化理論I類による解析結果をFig.1に示す。ここに、Fig.1に示されたカテゴリスコアは各アイテムにおける $X_{jk}$ の平均値を各 $X_{jk}$ から引いたものであり、 $m$ は各アイテムの $X_{jk}$ の平均値の和である。またRで示されたレンジは各アイテムの最大値から最小値を引いたものであり、錯綜度における影響の強さを示す指標となる。

Table1 Classification of Park Elements

1	Public open space	1 Parks 2 Amusement parks 3 Residential gardens 4 Streets 5 Roads	4 Culture	31 Preferred or unoccupied land
				32 Library
2	Administration	6 Educational office 7 Municipal office 8 District administrative office 9 Prefectural assembly hall 10 Courthouse	5 Medical treatment	33 Art museum
				34 National stadium
3	Administration and Public safety	11 District prosecutor's office 12 District legal affairs office 13 Police station 14 Fire station 15 Prison	6 Sports	35 National hospital 36 University hospital
				37 Insurance office
4	Municipal and Public offices	16 Financial office 17 Tax office 18 Local treasury office 19 Post office 20 Telephone and telegraph public office	7 Traffic, supplies and distributions	38 Evergreen hall 39 Forest ground 40 Forest ground 41 Tennis courts 42 Soccer court 43 Cricket field 44 Gathering place 45 Soccer field 46 Basketball court
				47 Walking area 48 Station 49 Wholesale market 50 Natural resources 51 Substation 52 Garage (interior plant) 53 Cemetery 54 Housing owned by the local government
5	Education	21 Imperial household agency 22 Self-Defense Force station 23 Elementary school 24 Middle school 25 Senior high school 26 University or junior college	8 Public houses	55 Private houses 56 Restaurants 57 Monuments 58 Museums 59 Areas of scenic value
				60 Castle ruins

Table2 Relation between City Energy and Degree of Complication on the Scenery of the City Parks

	City Energy	Degree of complication		
		1	2	3
1	Kagoshima	Sedan-Orto	Chrysanthemum-Orto	Very complicated Orto
		Kanazawa	Hanabatake	Super complicated Orto
2	Hiroshima	Thuya-Takashima	Thuya-Takashima	Katsumata-Takashima
		Matsuyama	Thuya-Takashima	Takashima-Yashima
3	Miyazaki	Miyazaki-Takashima	Takashima-Yashima	Shioya-Takashima
		Nagasaki	Shioya-Takashima	Shioya-Takashima

Table3 Item-Category Standard (Veral values)

Item	Category	Item-Category Standard (Veral values)	
		Large	Small
Budget		Large(Over 30 billion yen)	Medium(10 billion yen)
	C	Medium(10 billion yen)	Small(Up to 5 billion yen)
	D	Large(Over 10 billion yen)	Medium(Up to 5 billion yen)
Ratio of budget		Small(Up to 10%)	Large(Over 10%)
	C	Medium(Up to 10%)	Large(Over 10%)
Type of land ownership		Public-owned	Privately owned
	C	Public-owned	Privately owned
Designation		City park cultural properties protection and others	City park cultural properties protection and others
	C	City park cultural properties protection and others	City park cultural properties protection and others
	D	Unprotected and others	Unprotected and others
Symbolism		Large	Small
	C	Medium	Small
	D	Small	Very small
Location		Suburb	Urban area of the city
	C	Suburb	Central district of the city
	D	Central area of the city	Mainly a west of a river
Boundary		Mainly a west of a river	Mainly a roadway
	C	Mainly a roadway	Walls, trees and others
	D	Walls, trees and others	Small(Up to 10%)
Park area		Medium(10ha-25ha)	Large(Over 25ha)
	C	Medium(10ha-25ha)	Large(Over 25ha)
	D	Very large	Very small
Castle type		Hirayama castle	Miyajima castle
	C	Miyajima castle	Hirayama castle
	D	Very small	Very large
City energy		Medium(Up to 500)	Large(Over 500)
	C	Medium(Up to 500)	Large(Over 500)
	D	Very small	Very large

っている。

## 6. 考察

指定条件のレンジは $R=0.35$ と全要因中最大の値を示し、錯綜度に対する影響力は最も大きい。都市公園としての指定がある場合には、文化財保護指定の有無にかかわらず錯綜度は小さな値を示し、保存に対する効果のほどがうかがわれるが、これら以外の指定があるいは無指定の場合にはスコアはさういふさくなり、指定内容の厳しさと錯綜度の間には逆相関ともいえる関係がみられるという結果になっている。したがって、この結果から一定条件のもと、都市公園法で許された施設を中心として城址景観の錯綜度が増大してきている

ことが推察される。都市エネルギーの要因のレンジは $R=0.22$ の値を示し、全要因中2番目の大きさを示し、錯綜度に対する影響力是非常に大きい。しかも、都市エネルギーが増大するにつれて、錯綜度も線形的に増加し、都市エネルギー最大の場合のスコアも大きな値を示している。城址公園の予算額のレンジは $R=0.21$ の値を示され、全要因中3位の大きさを示し、錯綜度に対する影響は大きい。しかし、予算額と錯綜度の間には線形的関係はみられず、への字型分布を示す。この考察のために予算額3000万/年以上の最大のカテゴリーに注目し、その中に含まれている城郭を取り上げてみると熊本、岡山、高松、高知、弘前、松本、和歌山、松江、彦根など近世城から構成されていることが知られ、多額の予算を歴史的環境の保全のために投入することによって歴史的景観を維持していることが推察される。土地所有形態のレンジは $R=0.19$ の値を示し、全要因中4位の大きさを示し、錯綜度に対する影響力は比較的大きい。しかも公有地から私有地になると直線的に錯綜度を増加し、土地の所有形態が後成的景観の錯綜度と密接な関係にあることが知られる。位置条件の要因のレンジもまた土地所有形態と同じ値を示している。最も錯綜度の高いのは都市の中間帶であり、この地域の城址は公園として最も利用されていることを示す。景観保存の観点からみれば、最も配慮されなければならない地域であろう。

一般に後成的景観の錯綜度の基本的要因は都市エネルギー、指定条件、予算、土地所有形態、位置条件の5要因であり、その他の要因はこの基本的要因と考えられる要因を補うという構造になっていることが知られ、これらの要因のうち都市の成長発展の程度が著しく、土地所有形態が私有地の場合、城郭の位置が都市の中間帶において、境界条件が車道の場合においては錯綜度は大きな値を示し、城郭の位置が郊外で、予算が少なく、指定条件のないに等しい場合においては錯綜度は小さな値を示す結果となっている。なお、以上の分析結果における重相関係数は $r=0.78$ という値を示した。

## 7.まとめ

本研究で得られた結果を要約すると次のようになります。  
①都市の成長発展について城郭の後成的景観の錯綜度は線形的に増大する。同じ規模においては交通情報網が発達し、他都市と緊密な関連にある都市ほど保存度は小さくなっている傾向にある。  
②城郭の後成的景観、錯綜度の基本的要因としては、都市度のほか、指定条件、土地所有形態、予算額、位置条件の4要因があげられ、  
③象徴度、境界条件、公園面積、Castle Type、予算比の諸要因はこれを補うという構造を示している。  
④土地の所有形態が私有地の場合、城郭の位置条件では都市の中間帶において、境界条件では車道の場合の錯綜度が大きく、  
⑤指定条件がゆるいが無指定の場合、あるいは、予算額がさわめて小さな場合、または、城郭の位置条件が郊外の場合においては、錯綜度が小さな値を示す。  
⑥都市の基本的成長発展の過程は、リーモダイナミックスの概念を導入したリーモダイナミックスモデルによって、明確に説明できる。

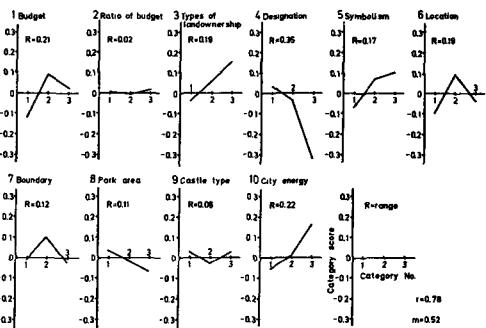


Fig.1 Analytical Result of the Theory of Quantification on the Degree of Complication about the Scenery of the Castle Ruins